

## 一般質問

九月定例会では、九人から一般質問が行われました。  
(質問順に掲載)

## 「有機農産物」の生産拡大で農家所得の向上を



新改 幸一 議員

野菜の生産指導により、地元農産加工業者、農協生産農家との契約栽培を目標に、農家の所得向上が図られるような施策は講じられないか。

**新改 幸一 議員** 本町の基幹産業である農業のなかで、特に米については、県内外の消費者から注目を浴びている。地域の特性を活かした、安心・安全・こだわり米、さらにはうまい米の生産を目指すため、畜産農家との連携による有機米の産地づくりを進める考えはないか。また、管内には優秀な焼酎工場や漬け物工場もあるが、イモを含めた有機

学肥料、減農薬栽培等による特別栽培米の面積拡大を図り、付加価値米として価格の差別化を進めている。

米政策改革大綱でも、産地づくり対策のなかで、有機米など特色ある米づくりをガイドラインとして示しているので、制度の推進と併せて拡大を図

つていきたい。

畜産農家との連携については、うまい米づくりには、完熟堆肥の投入が欠かせないことから、レング栽培による有機米生産と併せて、関係機関と協力して、堆肥投入のシステム化にも努めていきたい。

有機野菜の生産対策に



堆肥散布機を使用するの土づくりへの取り組み

についても、有機米同様に町としても、地産・地消や農家所得向上の観点から、地元業者との契約栽培にも積極的に取り組みたい。

**行政・農協一体で、「さつま米」の販売拡大を**

**新改 議員** 合併を目前に、新しい町の名称も決定した。「さつま」は全国的に有名である。これから、生産農家の原産地表示は、かなり厳しくなると思われる。米の販売拡大に、農協グループも苦慮されると聞くので、農協まかせでなく転作も含め、行政・農協両輪で米づくり対策を進めていくべきではないか。

**町長** 当地域のヒノヒカリは、「奥薩摩」のブランドで有利販売がなされているところだが、これからも関係機関と一緒に取り組んでいきたい。